

# 「イラクへの自衛隊派兵を中止することを求める意見書案」 提案理由(要旨)

2003年第3回定例会 まつざき真琴

私は、発議者を代表して、意見書の提案理由を申し上げます。

政府は、米国の強い要請を受け、100人規模の自衛隊先遣隊を12月にもイラクに派遣する方針を決めました。その後、年明けにも、過去のPKOと比較して最大規模となる600から700人程度の派遣準備に入るとされています。

しかし、イラク全土どこも安全な地帯はないと米軍の司令官自身が認めているように、イラクの治安情勢は悪化の一途をたどり、まさに泥沼化しています。米兵の死者は、ブッシュ大統領が5月1日に大規模の戦闘終結を宣言して以降、170人を超え、それまでの138人を大きく上回っています。米軍の不当な占領に対する抵抗や暴力の広がりには米軍以外の軍隊や国連の現地事務所まで襲撃の対象とされるなど深刻な事態となっています。

また、イラク攻撃の最大の口実とされた大量破壊兵器について、1400人規模のアメリカの調査団は、今月2日「大量破壊兵器は見つからなかった」という中間報告をおこないました。国連のアナン事務総長も、9月23日の国連総会の演説で、名指しこそしなかったものの、イラクに対する無法な戦争をおこなった米英両国が主張する「先制攻撃」と「単独行動」の論理について、「国連憲章への根本的な挑戦」と批判しています。イラク戦争が国連憲章違反の侵略戦争であり、無法な戦争であったことは、明白であります。

このような無法な戦争への支持に固執し続け、不法な占拠がおこなわれているイラクに自衛隊を派兵し、米英軍の軍事占領を直接支援することは、文字通りの参戦であり、武力による威嚇と武力行使を禁じた憲法に違反することは明白です。また、無法な占領支配の共犯者として、アラブ・イスラムの人々全体を敵にまわすことにもなりかねません。

よって、憲法違反のイラクへの自衛隊派兵は中止することを強く要求する意見書を提出することを提案するものです。

以上で、提案理由の説明を終わります。